

新しくカピバラ 2 頭が仲間入り！

飼育員・にしかわ

カピ！バラエティハウスに、新たに若いカピバラ 2 頭が仲間入りしました。オスの「ソルト」とメスの「ねっとう」です。どちらも伊豆シャボテン動物公園からやってきました。初めの一週間はとても緊張していましたが、今は 2 頭仲良くのんびりと過ごしています。当園では、寝室から展示場までカピバラが歩いて行かなければならないので練習が必要です。最初は周りを囲って道を作ってあげます。だんだんと周りの囲いをとって、最終的には囲いのない道を歩いて外に出たり、寝室に帰ったりします。この道を覚えるまでしばらく時間がかかるかなと思っていましたが、こちらの予想を超えて、2 頭は 3 日ほどでスムーズに出入り出来るようになりました！賢いなあと感心！ただ、飼育員にはまだ慣れておらず、近づくとギョツとした顔で見られるのでこれから少しずつ覚えてもらおうと思います。



初めて展示場へ
出陣！



上：ソルト
下：ねっとう

すごいぞマツコ！！

飼育員・おおぐり

個性豊かなメンバーが揃うチンパンジーたちですが、特にマツコは個性的！とても頭がよく、健康管理のためのハズバンドリートレーニングを始めた時はどの個体よりも早く多くのことが出来るようになりました。

また、担当者が寝室の中にあるものを「それを取って」と指差すとキョロキョロと周りを見渡し、「これですか？」とこちらに確認をして格子の隙間から出してくれます。さらに、段ボールなど大きくて隙間から出しにくいものは破って、細かくして出してくれます。教えたわけではなくても自分でどうしたら良いかを考えて行動してくれます。本当にすごい！！

ではどうしてそんな事が出来るのか？実はマツコは幼い頃に水族館でショーに出ていた経験があるため担当者の行動をよく見ているのかなと思っています。ショーに出ていたと聞くと華々しいように感じますが、赤ちゃんの頃に母親から引き離され、その後は仲間と暮らしていなかったためチンパンジーとのコミュニケーションの取り方が分からず群れに馴染めず各地を転々としていました…

2008 年にかみね動物園に来園しやっとな群れの一員として暮らせるようになり、2012 年にはリョウマを生みました。

現在 47 歳。高齢になってきましたがマイペースにこれからも過ごしてほしいと願っています。



海岸にはお宝がいっぱい

飼育員・きむら

新しくはちゅうるい館に仲間入りしたスッポンの飼育展示場を住みよい環境にしたい！スッポンは池や沼、河川に生息しているから生息環境を再現できそうなものはなんだろう？そうだ海に、行こう。ということで海岸に流れ着いた流木を使っての爬虫類ビバリウムづくりを始めました。流木は川の源流でも拾えますが、日立市は海が近いので海岸に拾いに行きました。ひたすら砂浜を歩いて展示場の中をイメージしながらこれは！というのを拾ってきます。流木は生きている木と違い、長い時間をかけて川から海に流れてくる間に樹皮がむけ、擦られ、独特の形や質感を自然が自然に作り出します。拾ってきたら熱湯で洗う～消毒液で洗う～また熱湯で洗う～天日干しすることで使うことができます。スッポンの展示場には植物育成ライトを使って植物も育て水辺の環境に近づけています。

※爬虫類ビバリウムとは自然に近い環境を再現した水槽、ケージの空間のこと。

★ミズオオトカゲのところに置いてあるえぐれた丸太は1人では持てなく、どうしてもほしくて後日数人引き連れて再び拾いにいった流木です。

わかる人にはたまらない一級品のお宝です。



地味なんて言わせない！

飼育員・ところ

リスザルの島を出て正面右側に位置するサバンナモンキー。ここにはオスの「ケビン」とメスの「サナ」が暮らしています。ケビンくんはいつもと違った空気を感じると警戒をしますが、基本的には人に寛容な性格。逆にサナちゃんは常に警戒心MAX！来園者の皆様を極度に気にすることはありませんが飼育員に苦手意識があり、獣医師さんも大の苦手。そんな個性あふれる2頭。子宝には恵まれないものの、毛づくろいをしたりエサの時間を楽しみにしたり日向ぼっこをしたり、2頭でのんびり過ごしている姿を見ることができます。



そんなサバンナモンキーたちですが、全体的な見た目が灰色っぽく、目立つサルかと言われると正直微妙なところ…。スルーされてしまうことも多いのですが、ぜひ見てもらいたいののがケビンくんのお尻の下あたり。よく観察すると、スカイブルーのきれいな色をしています。オスはその鮮やかな色をメスに見せることで自分の魅力をアピールしていると言われています。サルの楽園にお越しの際は、ぜひこのきれいなスカイブルーを見てみてください。

